

## 入賞

野口勝子 [神奈川県／68歳] テーマ「別れ」

夜の戸張りが降り私の囲りを南無の空間が取りまいています。貴男とお別れして七年が経ちます。今私は介護の現場で仕事をしながら貴男が命を落した脳梗塞や一連の病歴の方、認知症の方々と向き合っています。仕事をしながらいつもこの方がもしかして貴男かも知れない、み仏が否貴男が私に今も心を届けて下さり、私の毎日をこの介護を通して生きる力を与えて下さっているのではないかと思うようになりました。貴男にして上げたかった事や言葉、笑顔、美味しい食事作り、身の囲りの世話をしながら全部貴男に届ける気持で心満たしています。休みの日はお寺に参り、阿弥陀如来の慈悲を聞法し、親鸞聖人の他力の教えに救われ持ち帰ってはホームの皆様に聞きかじりの御住職の話等させてもらっています。旦那さんは？と尋ねられ「み仏のもとに」と答える時はいつも涙がこみ上げてきます。何故一人でそんなに急いで彼岸へ行ったの？と責めたくなるからでしょうか。でも仏様の前で赤本を開きつまづきながらも読経すると心が和み貴男と話が弾みます。そっと誰かが見ていると独語する変な人と思われるかも知れません。この世での別れなら又再会もありますが、彼岸の貴男とは夢の中だけです。彼岸から見た此岸はどう見えるのでしょうか。この手紙が届いたら、是非そちらの様子を知らせて欲しいです。筆不精の貴男のこと、すぐに返信とは思いませんがお待ちしています。お墓参りには孫達がお祖父ちゃんに報告と言って学校や友達のこと話してます。最後にいつも「見守っていてね」と言って帰りますが貴男の優しい視線をずっと感じています。西本願寺帰敬式で貴男と同じ一字を法名に入れてもらいました。それだけで彼岸では迷わず貴男に逢えると楽しみです。貴男から受け継いだ残りの命を感謝しながら一日一日を大切に生きてゆきます。いずれ別れゆく子供達に南無阿弥陀仏の心を残して行きたいと思います。